ORIENTEERING JAPAN

O-JAPAN

シンキングスポーツ・オリエンテーリング

'93/6

1993年［平成5年］6月10日発行
（毎月1回10日発行）
第10巻第6号通巻第119号
昭和63年6月24日第三種郵便物認可

第１回阿蘇オリエンテーリング大会

１９９３年５月２３日(日)：快晴

▶参加者総数：１６０名（HA=78，DA=23，H40A=24，D40A=4，B=25，N=1，G=5）

▶大会実行委員会役員

＊実行委員長：曽根崎　淳

＊運営責任者：小山　宏之

＊競技責任者：岩井　　馨

＊渉外責任者：曽根崎 淳

＊会　　計：曽根崎 淳

▶運営スタッフ（年令，所属，運営パート）

・岩井　　馨（22，九州産業大学5，スタート・計算センター）

・岩井荘二郎（20，福岡大学3，地図交換所）

・神谷　晴夫（60，福岡OLC，本部・計算センター）

・小山　宏之（24，山口大学OB，本部・ゴール）

・坂田　健次（18，博多OLC，スタート・計算センター）

・鈴木　尚志（21，山口大学4，本部・ゴール）

・曽根崎　淳（28，博多OLC，本部）

・原田　　隆（41，博多OLC，本部・ゴール）

ORIENTEERING JAPAN
O-JAPAN

93／6月号・№119 目 次

● 「スウェーデン
エリートのトレーニング禁止を解除」
IOF "ORIENTEERING WORLD"誌より　訳：田口　肇.....4

●＝投稿＝
「スタートリスト作成方法に関する私案」
中村　授.....5

●＝ＳＱＵＡＤより＝
「鹿島田浩二・福士淑子　ＷＯＣ代表選手に決定」
「ＷＯＣ代表選手の抱負」・「ＮＴメンバー紹介」
「ＪＷＯＣについて」・「ＳＱＵＡＤ新組織へ」
SQUAD 広報担当・桐田　幸宏.....6-9

●＝投稿＝
「インカレ優勝の報を受けて」　和田　美千代.....10

●＝投稿＝
「九州ＯＬ界」　岩井　馨.....11-12

［今月の表紙］５月３日，静岡ＯＬＣリレー大会。デッドヒートを演じる尾上秀雄さんと辻村　進さん。
［今月の地図］５月２３日，第１回阿蘇オリエンテーリング大会（熊本県）使用地図。

ストリーマー

紺屋(こうや)の白袴

先月のこの欄と巻末の「編集部より」で，編集者の北欧行き・オーリンゲン参加のことを書かせていただいた。海外でのオリエンテーリングを少しでも楽しいものにしたいと，トコトコとジョギング程度のスピードで毎朝走り始めて見たが，とてももう無理がきかない。先ず大切な会社関係のこと，家庭のこと，Ｏ－ＪＡＰＡＮのことと，仕事は山積み。ツユ時の不順な天候も重なって体調を少し崩してしまった。ここ７～８年はオリエンテーリングの機会も少なく，毎日走るほどの時間も無く，従って運動不足。加えて，ストレスを和らげるために（と思って）アルコールやコーヒーなどの量も増え，もちろん生活も不規則。「紺屋の白袴」「医者の不養生」とはこのこと。やっと立ち直って本誌の仕上げ。来月早々には７月号を仕上げなくてはいけない。まあ，頑張ってみます。それにしても，ＪＯＡについての，特に情報不足に対する不満の声をよく聞く。新組織ができた時，そして現在に至っても，理事さんたちは「難問山積み」ということを口を揃えておっしゃる。その難問のひとつに「広報」の問題があるらしい。そして根本は「金」不足にあるようだ。しかし，財源を確保することはもちろん必要だが，支出をセーブするための知恵と労力を出し合うことを考えて見ては。と，ＪＯＡの役員さんたちにおすすめしたい。オリエンティア登録などで「資金稼ぎ」をしても，「情報提供」をはじめとした見返りがなければ，オリエンティア数の横ばいや減少，あるいは固定化が進み，発展にはつながらないであろう。景気回復の兆しが見えたとはいえ，企業のバックアップなどはまだまだ期待できない現状，ＪＯＡもリストラが必要。役員さんたちも頑張ってください。白袴を２～３着お譲りしますから。

流人

スウェーデン　エリートのトレーニング禁止を解除

但し，医学者たちの困惑は続く

スウェーデン・オリエンテーリング連盟（ＳＯＦＴ）は，国内の 3000 人に及ぶエリートランナーたちの過激なトレーニングの禁止を解除した。エリートランナーたちの相次ぐ突然死の原因追及のため12月にスタートした医学テストのプログラムで，大部分のランナーたちは良好で完全な健康状態を示したことが大きな理由でる。この死に関する多くの問題は未解明ではあるが，スウェーデンは現在今年アメリカで行なわれる世界選手権への参加を明確に決定した。

昨年11月，この国の 300人のトップ・エリートランナーが強度なトレーニングや競技会への出場を控えるように勧告され，今年１月には，この禁止勧告は一般ランクのランナーたち約 3000 人にひろげられた。この拡大の理由は，この医学調査の最初の結果が，トップ・エリートランナーの中には突然に頻度の高い変則的な心臓変化を示したからである。

大規模な医学調査プログラムは，この"Orienteering World"誌の３月号でも述べたが，1992年12月にスタートした。これまで約 160人のランナーが詳細な調査を通り抜け，約 1400 人が血液検査を受けた。これらの調査の結果は分析され，ＳＯＦＴによって採られた最近の決定の基となった。

医師たちからのゴーサイン

“エリートランナーたちを対象に慎重に行なった医学調査の結果は，完全に良好かつ健康的なものであった”とＳＯＦＴの議長であるオーケ・ヤコブソン氏は述べている。“ドクターによってゴーサインが出されたことによって，われわれはリスクは比較的に少ないと考えているし，彼らは徐々にトレーニングを再開できる。しかし，言うまでもなく彼らは伝染病に対して，そして体調の悪い時のトレーニングを避けるなどの注意を払わなければならない。”

オーケ・ヤコブソン氏は続ける。“しかしながら，一部のエリートオリエンティアたちは正常ではない変化を示しているし，わずかながら心筋に異常な変化を見せた。これらのオリエンティアたちはすぐにこれまで通りのトレーニングにとりかかるわけにはいかないが，担当した医師たちによって，適当なトレーニングレベルに応じたメニューが与えられている。

兆候はある

医学調査のもうひとつの重要な結果，その中にはもちろん異常な心臓変化を現在も示している者もいることは事実である。最近死亡した者に行なった調査もまた死亡前にそのような兆候を示していて，その症状は通常ランナーたちによって意識的に，または無意識に言い出されてはいないものである。そこで引き出される結論は，兆候が起こるものであり，また，たとえもはや症状が無くても僅かに以前の伝染性疾患が検分されているということである。

スウェーデンのチーム・ドクター，クリステル・ヨハンソンさんは言う。“彼または彼女が進行中の伝染性疾患の場合，エリートは決してハードなトレーニングをしてはいけないということは，極めて重要な事実です。既成の伝染性疾患と過激なトレーニングの組合せは重大な心臓へのダメージを招きかねません。その兆候は「通常の」インフルエンザの症状からランニングの時の眩暈や失神に至る範囲の度合いを含むものであり，単純な一言で表現することは難しい。最も重要なことはあなた自身の身体に聞くことで，その信号が正常でないときは即座に反応することです。”

ＳＯＦＴは，エリート・オリエンティアたちがこの間にあらゆるリスクを負うことなく，医学のエキスパートたちが調査を終わらせるためにもう少し時間を取るための禁止期間が必要であると考えている。多くのエリートランナーたちは，伝染性疾患からもとに戻るための時間を必要とした。おそらく最も重要なことはオリエンティアたちと医学サービスの全てが進行中の伝染性疾患の中でのハードなトレーニングは非常に多くのリスクを伴うという認識を持ち始めたということである。

再開への準備

いくつかの問題が未だ解決されていないし，二つの医学上のプログラムは６月末まで続行される。エリートが競技会に出てはいけないというエリートへの勧告は，この間に何も起こらなければ６月15日に解除となる。この日以後スウェーデンの大会に再びエリートクラスが登場する。新しい課題は６月15日までに作られるだろう。

ＳＯＦＴはまた，10月のアメリカにおける世界選手権でナショナルチームが出場することを決め，すでにその準備が始められた。

［ＩＯＦ発行
"ORIENTEERING WORLD" 誌
1993 No.3 MAYより］
訳・田口　肇

スタートリスト作成方法に関する私案

―シード方式―

中村　授（つくばROC）

1993. 4. 1

1．目的

競技公平度の向上と相互信頼の高揚

2．前提

1) 主催（管）者はスタートリスト作成責任者および無作為作業立会人を参加者に公表する。

2) スタートリストにシード選手を識別できる，なんらかの表示をする。

3) 参加者が個人的にシードを拒否する，わがままは認めない（シードされることが嫌ならエントリーしない）。

3．シード選手の決定

1) Eクラス

SQUADが集計する前年度（および当年度中間）エリートポイント上位者

2) Aクラスあるいはそれに準ずるクラス

O－JAPANが集計する前年度（および当年度中間）ナショナルランキング上位者

3) 前年度の出場クラスが異なる参加者の中で，その成績が当年の出場クラスのシードに値すると，スタートリスト作成者が認めたエントリー者を，2名を限度に当該クラス下位のシード候補者と置き換えることができる。

4．スタートリストのパターン

パターン	エントリー数 1)		シード数	シード選手スタート順 2)
I	9～27	9～11	2	6, 9
		12～14	3	6, 9, 12
		15～17	4	6, 9, 12, 15
		18～27	5	6, 9, 12, 15, 18
II	28～54	28～35	6	8, 12, 16, 20, 24, 28
		36～43	8	8, 12, 16, 20, 24, 28, 32, 36
		44～54	10	8, 12, 16, 20, 24, 28, 32, 36, 40, 44
III	55～87		10	10, 15, 20, 25, 30, 35, 40, 45, 50, 55
IV	88以上		10	16, 24, 32, 40, 48, 56, 64, 72, 80, 88

注 1) エントリー数 8以下は同レベルの他クラスのコースに編入する。
2) シード選手の当てはめには、あみだくじ、乱数表などを用いる。

5．作成例（平成4年度全日本大会の再現）

D21E（ｴﾝﾄﾘｰ 29, ｼｰﾄﾞ 6）

1		10:02
8	加納　尚子	10:23
12	木植　早生	10:35
16	福士　淑子	10:47
20	宮本知江子	10:59
24	金子しのぶ	11:11
28	宮川　祐子	11:23
29		11:26

（敬称略、一部略）

E21E（ｴﾝﾄﾘｰ 52, ｼｰﾄﾞ 10）

1		9:01
8	羽鳥　和重	9:22
16	村越　真	9:46
24	国沢　五月	10:10
28	鹿島田浩二	10:22
44	樋口　一志	11:10
52		11:34

注 1) シード選手の決定は，試みに早大大会までの1992年エリートポイント（本誌 93/3月号 P7 参照）を用いた。

2) シード選手の走順はあみだくじで決めたが，ここでは立会人を省略した。

［写真］
5月30日開催の第19回FTV ﾌｧﾐﾘｰｵﾘｴﾝﾃｰﾘﾝｸﾞ大会のスタート風景（記事には直接関係ありません）

SQUADより

SQUAD（WOC　SQUAD　JAPAN）はナショナルチームをサポートしています

鹿島田浩二・福士淑子　WOC代表選手に決定！

本年１０月、アメリカで開催される世界選手権大会（WOC）の日本代表選手の選考が進んでいる最初の選考会となった全日本大会に続き、WOCの為の単独セレクションレースが始まった。それぞれのレースで１位になったものはそのままWOCの切符を手にすることができる。

既に決っていた村越真・木植早生の各日本選手権者に加え、今回の本セレクション第１戦で、鹿島田浩二・福士淑子の両名が代表に決定した。

レースは５月２３日『望郷の森（岐阜インカレ個人戦テライン）』にて開催された。

男女ともツボりあいの泥レースを呈したようで、軒並タイムがかかっている。難易度の高いテラインだったようだ。

男子は、鹿島田浩二が、ロスを２分程度に抑え圧勝した。大きなミスのなかったのは彼だけだったようだ。

女子は、福士淑子が、３箇所程度はつぼりながらも、２位の金子を秒差で抑え何とか逃げ切った。

第２戦は７月に開催され、同様に１位の者が通過を決める。更に残る代表選手枠は、コーチによる推薦にて決定される。

本セレ第一戦結果

【男子】　8.4km　370m

1.	鹿島田浩二	７３：０１
2.	国沢　五月	８３：５４
3.	吉田　勉	８８：０７
4.	羽鳥　和重	９０：２５
5.	利光　良平	９２：５３
6.	樋口　一志	９４：２１
7.	加賀屋博文	９５：１９
8.	入江　崇	９５：５９
9.	中村弘太郎	９６：４０
10.	稲葉　英雄	１０３：１７
11.	鈴木　卓弥	１０４：５８
12.	富田　吉郎	１０５：２５
13.	鈴木　雄輔	１０８：０３
14.	田代　雅之	１２４：２８
15.	広江　淳良	１３６：２０
	河合　芳尚	Ｐ１
	鈴木　康史	ＤＮＦ

【女子】　5.7km　190m

1.	福士　淑子	７３：２２
2.	金子しのぶ	７４：１３
3.	長谷川恵子	７６：０１
4.	宮本知江子	８２：０３
5.	渡辺　初実	８２：１３
6.	鈴木夕紀子	８７：５６
7.	長岡　理恵	８８：３２
8.	渡辺　弥生	９３：３９
9.	加納　尚子	９５：５４
10.	浜田　由紀	９６：３１
11.	草野　望	１０２：４４
12.	小西　陽子	１０５：４４
13.	田垣　尚美	１１２：１２
14.	千葉あかね	１１３：１２
15.	田島　利佳	１４３：４６
	金田　収子	Ｐ４

ＮＴ合宿開催

ＮＴ合宿の様子（夜のミーティング）

今回それぞれのセレクションに先立ち、準備合宿が企画された。２回の合宿を通して「セレクションでよりよいレースをする」をコンセプトとしている。

第１回目は本セレ第１戦の２週間前、５／８・９の両日に『富士愛鷹』『天神山』などで実施されている。今回のテーマは「わかり易いチェックポイントを設定してラフ・ファインの切り替えを素早く」というもの。

結構メニュー本数も多く、参加者にはかなりハードな合宿となった様子だった。

ＮＴ合宿に参加したメンバー（93.5.9）

訂正：先月号で同様の写真が、［新生SQUADのメンバー］として掲載されましたが、大変な誤りであります。［ＮＴ合宿に参加した、ＮＴ及び本セレ出場者、及びスタッフのSQUADの参加メンバー］が正しい表現です（ぱっと見た目はＮＴの集合写真）。訂正をしてお詫び申しあげます。（注）SQUADはＮＴのサポート組織です。ＮＴとは人員も異なります。

ＷＯＣ代表選手の抱負

既に代表が決った皆さんに、ＷＯＣへの抱負を書いてもらった。（木植さんは、次号で）

＜村越　真＞

「水泳はしばらく続けるの？」って聞いたら、「やめた時はやめて、きっちりやめちゃって、そういうふうに。だらだら続けてても意味ないから、パッとやめて・・・」と岩崎恭子は答えた。アトランタに出るかさえ自分でも分からないという。ダラダラとオリエンテーリングを続けている自分は、それを聞いてちょっと恥ずかしくなった。確かにスポーツとの関わりは一人一人違ったスタイルがある。だが、「まだ可能性がある」と思うことで現在の努力を怠ってきた。それに気付いたのはＷＭ８９の時だった。あの時は確かに金・手間・暇をかけて準備を重ねた。

その時と同じ準備は今では難しい。月３００キロも走ると身体は崩壊寸前になるし、様々な雑用や研究、そしてコーチング、家庭での役割が自分をとりまいている。これが最後と思って、「この５ヶ月はアスリートになる！」と大学でも、家庭でも宣言している。かつてはそう言い切ることに迷いがあったが、今年はない。結果は、この関わりに必然的についてくるもの、そう考えてこの５ヶ月を過ごしたい。

ＷＭ８９　個人決勝最終コントロール

＜鹿島田浩二＞

セレクションが終って自分が世界選手権に出ることが決まった２３日、僕はＷＯＣランナーになったこと自体よりもむしろその日のレース内容や結果に満足していた。以外と淡白だなあと我ながら思ったけど、裏を返せばそれだけＷＯＣに出ることは自分のなかで当り前のことになっていたのだろう。

前回のチェコスロバキアでは欧州遠征の勢いで初めてにしては手応えのある結果を残すことが出来た。昨年のワールドカップ遠征でも自分の現在の実力を確認することが出来たし、今回はそれらの経験を生かしてもっと具体的な目標をもって臨みたい。旧ソ連やチェコスロバキアの分裂によって前回以上に上位を取るのは難しくなるであろうが、「ショート決勝進出」「リレーで前回以上の成績」という二つの大きな目標は譲れない。決して楽な目標ではないが可能性は十分にある。特にリレーは村越さんが元気なうちがチャンス、数少ない（？）チャンスを大切にしたいと思う。

インカレ９２　個人戦最終コントロール

＜福士淑子＞

ＡＰＯＣ９２　笑ってのリレー１走ゴール

５／２３のレースで危なっかしくも代表にきまり、今年も海外へ脱出できる喜びに浸っています。初めてのアメリカ大陸でのＯＬにわくわくしています（紅葉が奇麗という話も聞いていますし）。

海外遠征も今年で４回目ですが、自分の気持ちと身体が一体となってレースに臨めるようになったのは去年あたりからで、それまでは訳の分からないプレッシャーと大会の雰囲気に飲まれ、参加するのに精一杯という感じでした。昨年の夏、ユニバーシアードとワールドカップで“挑戦する”ことの楽しさを覚えたので、今年も肩の力を抜いて走れればいいなと思っています。

アメリカでのレースまであと４ヶ月程ですが、この期間にどれだけ自分が成長できるか、その過程を楽しみつつ、１０月まで静かに闘志を燃やしながら準備をしていくつもりです。

前回のＷＭのリレーではアメリカに勝ち、別れ際に“２年後また勝負しましょう！”と宣戦布告されているので団体戦は頑張って勝負したいです。

個人的な目標（！？）は「ゴールレーンを笑って走り抜けること」（ここに自分のレース内容が集約されているので）です。というわけで、思う存分走ってきたいと思います！！

ＮＴメンバー紹介

ＮＴ（ナショナルチーム）というと、世界選手権の代表チームをイメージするかも知れない。しかしスコードがサポートしているＮＴは、もう少し広義の意味で使われている。むしろ『強化選手』といった方が無難であるのだが、歴史的な経緯を踏まえてＮＴと呼ぶことにした。歴史的経緯自体の説明は機会があればということにして、今回はＮＴメンバーとしての原則的な基準を紹介する。

ＮＴメンバーは、日本の強化選手としてその称号を送られるわけである。

ＮＴメンバーの間で配布されている機関紙を『ＮＴブリテン』と呼んでいるがそれを読むと「ＮＴは世界を目指す人の集まり」という言葉をよく見かける。それも一つの表現なのだろう。むしろそれがＮＴの精神を言い表した一つの定義なのかも知れない。

ＮＴのメンバーを下記に紹介する。そして今月からメンバーの一人一人をじっくり紹介していきたい。読者のみなさんの注目が、更に彼らを強化することを筆者は願っている。

【ＮＴの基準】
エリートポイントの対象レースで
男子：１０位以内１回
　　５位以内１回
女子：１０位以内２回

ＷＯＣ参加経験者およびそれに準ずるものをＡ級強化選手と呼び他をＢ級強化選手と呼ぶ。更に大学生を対象にＪｒ強化選手が設けられている（明確な規定は無し）

メンバーはコーチによる推薦と本人の意志により、決定する。

ＮＴメンバー

【男子】　（コーチ：村越）

石井　龍男（千葉ＯＬＫ）
稲津　隆敏
稲葉　英雄（三河ＯＬＣ）
入江　崇　（東北大ＯＬＣ）
加賀屋博文（筑波大ＯＬ愛）
鹿島田浩二（東京ＯＬＣ）
菊地　正昭（青葉会）
国沢　五月（東京ＨＲＣ）
桜井　太郎（東大ＯＬＫ）
菅原　琢　（多摩ＯＬ）
鈴木　卓弥（東大ＯＬＫ）
鈴木　雄輔（東京ＨＲＣ）
武田　光　（早大ＯＣ）
田代　雅之（ワンダラーズ）
富田　吉郎（多摩ＯＬ）
中村弘太郎（朱雀ＯＫ）
南条　伸穂（学習院大ＯＣ）
羽鳥　和重（早大ＯＣ寿会）
村越　真　（静岡ＯＬＣ）
森内　知男（鳩の会）
山本　英勝（東大ＯＬＫ）

【女子】　（コーチ：山岸）

石川恵美子（東北大ＯＬＣ）
出田　裕子（ＯＬＰ兵庫）
金子しのぶ（ワンダラーズ）
加納　尚子（TEAM　ZEBRA）
木植　早生（茨城小中教員Ｃ）
小西　陽子
志村　聡子（早大ＯＣ）
白井　由美（朱雀ＯＫ）
高木喜美江（京都橘女子大ＯＬＣ）
田島　利佳（みちの会）
浜田　由紀（東京ＨＲＣ）
福士　淑子（鳩の会）
宮本知江子（京葉ＯＬＣ）
渡辺　初実（横浜ＯＬＣ）

僕を覚えてね：ＮＴ人物紹介

加賀屋　博文

日光インカレ個人戦３位のゴール（92.3.）

筑波大学３年生だった平成２年度の全日本大会（富士宮）でH21E５位。NTに声をかけられた。平成３年度（岐阜）７位。平成４年度（島根）５位しかし、それほど目立ってはいない。

実はインカレも２年生の時から個人団体ともずっとエリートにでている。ちなみに１年生の時は、兄の結婚式でインカレに出ていないそうだ。「インカレではエリートしか走ったことがない」のが自慢だとか。

ともかく隠れた実力者である。

「はじめはインカレを目標にやっていたが、４年の秋頃に、自分はインカレで終るのか、更にその上のレベルを目指すのかで考えた時期があった。関東インカレ個人戦で成績がダメだったらインカレで終りにしようとしたんだけど、３位になった。それで更にその上もやれるんじゃないかと思って・・・その時ユニバーにいこうと思った。」以来、世界に目を向けている。

３位になった関東インカレで負けたのは鹿島田浩二と国沢五月。日光の本インカレでも同年度WOC選手の中村弘太郎を抑え、同じメンツで上位３つを占めた。そして今回のセレクションレース。鹿島田と国沢が上２つをとった。「カッシー（鹿島田）がこけたら代表をとれるという位置にいこうと思っていたが、最近スピードでるレースが多かったので、調子にのってとばしてしまったら見事にとんでしまった。国沢に追い付いたんですが、次のポストで１０分やってしまった。」

しかし、本セレ第２戦では「１位で通過します。」と言い切ってくれた。

秋田県の出身。

小学生の頃は背が小さかったそうだ。卓球をはじめた。そして小・中・高と卓球を続けてきた。

大学に入って学類のコンパで先輩にお金を借りた。返金は「サークルの説明会の時でいいよ」。その説明会にいったのが、生まれて初めてのオリエンテーリングとの出会いとなった。彼の新しい人生がスタートしたのである。

現在、筑波大学大学院・環境科学研究科２年。

やさしそうな好青年である。

彼がファンだという女子オリエンティアも多い。

来月号のNT人物紹介は
菅原琢
白井由美
でお届けする予定です。

私を覚えろよな：ＮＴ人物紹介

田島　利佳

APOC・ﾎﾞﾗﾝﾃｨｱ役員として

この３月に行われたインターハイで妹の田島章江が３位入賞した。いわずと知れたオリエンティアファミリーである。

平成４年の正月、成人式を控えて父・三郎氏に、ある交渉をした。「振袖のかわりに航空券でもいい？」ユニバーを控えていたのだ。APOC直前のセレクションで選考人数ギリギリの５位。しかし発表された選考結果の中に自分の名前はなかった。大粒の涙が流れる。

・・・・・あれから１年。田島利佳は、やはり世界の舞台を目指している。「日本のトップレベルはだいたい見れてきた。世界はどうなのかな。高いレベルを見て自分を上げて行きたいと思う。」

からだは強い方じゃないらしい。この春からずっと体調が悪かった。まともにトレーニングができたのは本セレ１週間前。でも当日はからだが軽くなった。むしろレース中はスピードのコントロールが効かなかったらしい。３分前の金子しのぶに追い付きながら結局飛んでしまった。迷いもあったという。金子達のバックのあまりの遅さにとまどったそうだ。「慎重になりすぎてるよみんななんで、なんで、なんで・・・・」もっとスピードのでる技術を求めている。「その時自分のオリエンテーリングを求めた。そのバックが嫌だったから『そんなのいや』と思って一人で行ったら、飛んじゃった。」結局は結果をだせなかった自分に遠慮もしているのだろう。「やっぱセレクションだからそうなのかなあ。（みんなは勝つためにスピードを落しているのかなあ）仕方ないのかなあ」と、今の迷いを口に出す。でもそれも、所詮は方便のようだ。セレクションは精一杯楽しんでいる。そして・・・・「今から２年間ぐらいは、速さを求めるオリエンテーリングをやりたい。」そんな思いをわくわくした気持ちにかえている。

５才の頃からオリエンテーリングを始める。物心ついた頃から当り前のように存在し、ある意味では冷めてみていたのかも知れないＯＬ界に今は何かをかけている。ＯＬ界にとっても大切な人だ。

中・高時代は軟式テニスをやっていた。バレー・バスケ・テニス・卓球・・何でもこいのスポーツ少女。絵を見ることと散歩が趣味という。自分の家があるO-Map（赤根峠）の中を、愛犬ちゃちゃ丸と散歩する。

反骨なやつだが、かわいい。

ＪＷＯＣについて

JWOCはJr（ジュニア）の WOC（世界選手権）の略である。２０才以下のみを対象としている。今年でまだ第４回目という歴史の浅い大会であるが、幸運にも日本は第１回から参加をしている。利光良平君が、その噂を聞きつけてきたのが事の起こりであるらしい。

現在問題となっているのは、選手選考の方法で、まだ明確な基準は設けられていない（唯一昨年の第３回で設けられたものの、その場限りに終った）。この問題にSQUADとしてどう関わって行くかはまだ未定であるが基本的にはその選考に関与していく意向である。

本年度は、下記選手の出場が決まっている。３人とも、昨年のインカレで１年生ながら選手権クラスへの出場を果たしており、一応その資格があるものとみなされた。

JWOCについての詳細や、本年度出場メンバーの抱負は次号で。

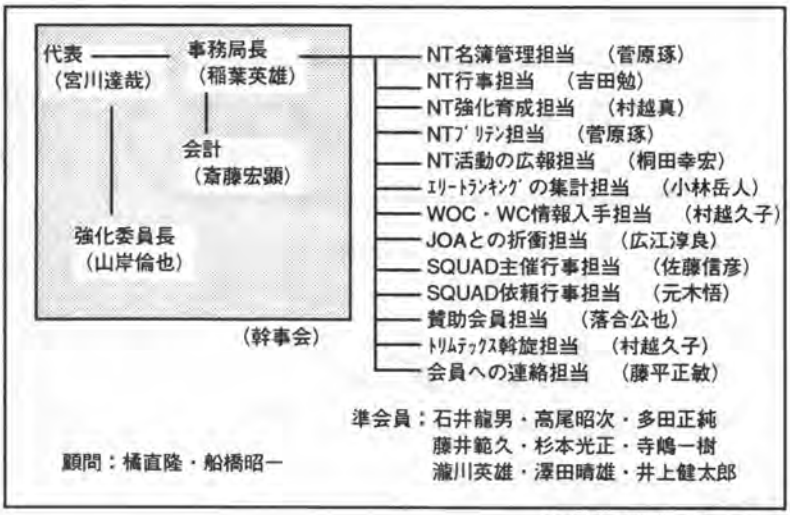
［JWOC93　参加メンバー］
鈴木　篤　　（早稲田大２年）
諏訪　高典　（京都大２年）
森　泰祐　　（山口大２年）

ＳＱＵＡＤ新組織へ

去る５月８日、WOC・SQUAD JAPAN（略称SQUAD：ｽｺｰﾄﾞ）の設立総会が開催された。従来のSQUADを一新し、NTの援助（NTはトレーニングに専念）や、日本代表選手として将来性のある選手への技術支援等をその目的としている。

メンバーはNTとは異なって存在し（一部NTメンバーも含まれるが・・・）、とにかく黒子に徹することとなった。活動内容（担当）は右表のとおり。

その機構をいつか将来、JOAへ引き継ぐことも設立理念の１つとなっている。



SQUAD広報担当・桐田幸宏

インカレ優勝の報を受けて

和田　美千代＝旧姓・須山（広島大OG）

育児に追われる毎日で，母校広島大学の女子がインカレで優勝したことを知ったのは，４月の中旬にクラブの会報を手にした時でした。その時，真っ先に頭に浮かんだのは，２人の３年生が必死で新入生を勧誘している姿でした。何しろ，インカレの時点で女子部員はたったの３人，そのうち１人が卒業したので，今年女子が入らなければ，来年は団体戦に出場することすらできないのですから。私たちの頃も，「数の山大，質の広大」と言っていましたが，足して２で割ったらちょうどよくなるのになぁと思います。

次に思い浮かんだのは，昨年11月に広島ＯＬＣが開いた大会の全ポと成績表を見た時のことです。成績表に，「女子のコースは易しめにしてある」と書いてあるとおり，ラクに突っ走ればよいコースでしたが，それにしても３人とも速いこと。WM予備セレクションを通過していた頃の私でも優勝できなかっただろう。インカレもこんなコースだったらリレーは優勝まちがいなしだけど，でもそんなに甘くはないだろう，などと思っていました。しかし，インカレでも女子のリレーともなると易しめにしたのでしょうか。そのすばらしいスピードを全国にアピールしたのは確かですが，以前に私が越えられなかった「技術的安定性」のカベを乗り越えたわけではないと思われます。

こういった手放しで喜べない事情もありますが，今年卒業した石黒佳子さんのことを思うと，最後を飾れて本当によかったなと思っています。彼女は２年生の時，インカレ直前の合宿でケガをして，インカレを見学しなければならないという目にあったからです。しかも，そのケガに関しては，私も多少の責任を感じているので尚更です。ランニング・オブザベーションをした時，道走りは私よりはるかに速いのに，林の中では私や川上留美子さんの走りに全くついて来れなかったので，「４月から比治山で林の中を速く走る練習をしっかりしなさいよ。」と言ったのですが，その数時間後に転んでケガをしてしまったのです。それでも，まだ２年生だったのは不幸中の幸いでした。いえ，もしかしたらそれが大きなバネになったのかも知れません。その後，私の方が急速にＯＬから遠ざかったので，どのような２年間を過ごしたのか詳しくは知りませんが，結果だけを思うとまるでドラマみたいな幕切れになったようです。

植物性

●持久力・体力……健康の維持
●ノンコレステロールです

プロティーン95

●皮膚・毛・目・爪・筋肉組織・分秘腺・血・
●ホルモン等すべてプロティーンで出来ている

レシチン

●脳神経系統内分秘腺及び心筋成分
●コレステロール分解

●お問合わせはO-JAPAN編集部まで

九州ＯＬ界

岩 井 馨
(博多ＯＬＣ・九州産業大学５・須磨友が丘高校ＯＬＣ卒)

去る５月23日、熊本県阿蘇郡高森町にて第１回阿蘇オリエンテーリング大会を開催いたしました。準備・運営は福岡・山口在住のオリエンティア有志８名という超少人数で行ないましたが、当日は多くの参加者の皆さんが自ら進んで快く手伝って下さった事もあり、また前日の小雨とうってかわって快晴に恵まれた事もあって、まだまだ課題も多いですがひとまず成功させる事ができました。参加された皆さん、激励の言葉を下さった皆さん、影でバックアップして下さった皆さん、ありがとうございました。

さて、阿蘇大会とは直接関係ありませんが、この機会に九州ＯＬ界について思っていた事などを書いてみたいと思います。私が九州に来てからのＯＬ活動は５年目になりますが、高校時代に３年間活動していた関西ＯＬ界と比較してみて、大きく異なる点のひとつにＯＬ情報網の濃さがあると思うのです。私が大学入学後に再びコンパスを持ったのは、大学１年11月の西日本大会（佐賀）でした。実はこの西日本大会も高校時代の顧問の先生に教えて頂いて知ったわけですが、もしこの大会がなければすっかりとＯＬ熱が冷めてしまって、今現在までＯＬを続けていたかどうか分かりません。これと同様に大学を卒業して九州にＵターン就職したオリエンティアの方でも、情報が無いばかりに（情報を得る事が困難で）ＯＬ界から離れていった人も多いのではないかと想像できるのです。

つまり九州の県協会・クラブの発するＰＲが非常に少ないという事です。私も普段からアンテナを張り巡らせていますが、それでも九州地区で大会のある事を確認できるのは、毎年いつも北九州ＯＬＣ、福岡県ＯＬ協会、佐賀県ＯＬ委員会だけで、その他の県では大会が有るのか無いのか分からない状態です。もし上記以外に恒例の大会をやっているという県協会・クラブがあったとすれば、それはＰＲ活動が下手なのか、閉鎖的で内輪だけで盛り上がっているのか、としか思えません。

九州圏外の地区について詳しい事は知りませんが、少なくとも私が知る関西のクラブの皆さんは、例えば以前に大会参加してくれた人に次回の大会の事をお知らせしたり、そこまでしなくとも大会会場で大会要項を配布したりポスターを貼ったりして積極的にＰＲ活動を行なっています。こういう姿勢が九州ＯＬ界には不足しているように思います。圏外からの参加者を呼ぶ事は、九州ＯＬ界にとっても絶対に刺激となるはずなので、クラブや大会の存在をもっとアピールするべきだと思うのです。

次に思う事は、もっと九州圏外の大会へ遠征し、それもただ大会参加するだけではなく、大会にどのような工夫がなされているかという事を学習してほしいという事です。私もよく大会遠征を行ないますが、その会場でお会いする九州の方というのはいつも同じ顔触れです。九州という地理的な事もあってなかなか遠征に繰り出せない事も分からないではないですが、かと言って九州圏内に閉じこもってばかりいては、大会を良くしていこうという発想や意欲も生じてこないと思います。良い大会という意味では、下手な公認大会より大学クラブの大会の方が、より良い大会作りに努力していると思いますので、身近なところでは山口大学・広島大学が大会を開催しているわけですから、どんどん良いところを持ち帰って、今度はそれを自分たちの大会に活かしてほしく思うのです。ただ内輪で集まって、ピントのずれた話し合いを重ねていても仕方ないですよ、特に各県を牛耳っている理事などの方々！、という事です。現場の声が上部組織に理解・反映されないようでは、どうしようもないですからね。

もうひとつ思う事は、県といった小さな枠に捉われずに、九州各県が協力してひとつの企画（大会、特に公認級）を成し遂げていけないものだろうか、という事です。ご存じのように九州のオリエンティ

ア人口は極めて少ないわけですが、九州には（関東や関西のオリエンティアの皆さんが見たら、きっと鳥肌の出るような）良好な未開発テラインが豊富に存在し、スーパーAの林が多く眠っています。昨年は大分県が西日本大会を受け持つ事になっていたそうですが実際には開催されませんでした。しかし、私が散歩がてら大分の山を見て来た限りでは非常に手入れの行き届いている林も多々ありましたので、開催できなかったのは、（これはあくまで推測ですが）準備するパワーが大分県単独では足りなかったからではないのでしょうか。いま九州で公認級の大会が県単独で開催できるのは、たぶん福岡・佐賀だけ（この2県も決して力量的に余裕があるとは言い難い）のように思います。

つまり日本OL協会から西日本（もしくは全日本）大会の指名が来たとしても、それが果たして九州各県で開催できるのかどうか、開催できたとしてもそれは公認大会という一定の水準（地図の精度、運営やコースの質など）を保てるのかどうかという事になります。九州にはせっかく良好なテラインもある、各県には北九州OLCや大学OBをはじめとする優秀なオリエンティアもいる、しかし県といった枠に捉われ力が分散してしまっている限り、この先も現状と変わらないように思えます。ですから九州各県が“九州OL共同体”となって、公認大会などを実現させていくのが理想のように考えています。そのうち活動や交流が活発になってくれば、九州OL選手権大会といったものも可能かと思うのです。まあ私個人や数名のオリエンティアだけが意気込んでも、各県協会の理事の方などが意欲的・積極的でなければどうしようもない事ですが、しかし、夢は“見るもの”ではなく“追うもの”ですよと訴えたい気持ちです。先の阿蘇大会も、そのような夢追う数名のオリエンティアが金も時間も惜しまず準備し実現させたひとつの結晶と考えて頂いても良いかと思います。

これらの事から、私は『九州地区オリエンテーリング冊子(仮)』なる本を作る事を考え付きました。いったい九州にはどれだけの地域クラブ、どれだけのO－MAP（PC含む）が存在するのか、各地域クラブがどのような活動を展開しているのか、などを1冊の本に編集しようと思うのです。私の知る全てのクラブ・個人には7月中にアンケートを送付いたしますが、8月になってもアンケートの来ないクラブ、または個人で活動している九州のオリエンティアの方がいらっしゃれば、ご一報頂ければと思います。また九州へUターン就職した等の大学OB・OGをご存じの方がいらっしゃれば、それらの情報もお寄せ頂きたいと思います。とりあえずこの本が完成すれば、各クラブ・個人同士でいろいろ情報交換できると思いますし、そこから面白い企画・ビッグな企画も飛び出す事でしょう。10月頃完成すると思いますので、ご協力お願いいたします。

さて、そのPRのついでと言っては何ですが、今年4月に福岡市近郊在住のオリエンティアで結成しました『博多OLC』が、来たる10月3日(日)に福岡県朝倉郡夜須町、福岡県内屈指のテラインでニューマップを完成させて第1回大会を開催いたしますので、都合のよろしい方は是非ご参加下さい。

☞連絡先：岩井 馨　〒813 福岡市東区香椎駅東4-26-5-302　☎092-683-4031

O－JAPAN　発行人／田口 昭子　：　購読料　年間4月～3月 ¥3,000　：　編集責任者／田口 肇
〒233 横浜市港南区日野南7-9-5　：　(高校生以下)　¥1,800　：　Chief Editor: Hajime Taguchi
TEL.045-891-7004　FAX.045-891-2500　：　'93.6月～'94.3月　¥2,500　：　Editorial Address:
(Annex) 0287-77-1977　：　1部あたり頒布価格　¥250　：　7-9-5, Hino-minami, Kohnan-ku
郵便振替口座／横浜7－46870 (加入者名) O－JAPAN 編集部　：　Yokohama, 233 Japan

(2046)